

国指定天然記念物 ネコギギ



(志摩マリンランド提供)

ネコギギ (*Pseudobagrus ichikawai*) は、伊勢湾および三河湾に流入する河川の中・上流部のみに生息するナマズ目ギギ科の淡水魚であり、ギギ科のうちでも比較的古い時代(第三紀中新世；およそ 2,000 万年前)に種分化(新しい種として分かれること)したと考えられています。ドボ、カンパチ(三重県宮川水系など)、クロザス、ギユウタ、ネギ(岐阜県木曽・長良川水系など)など、様々な地方にある名称で呼ばれています。

昭和52年(1977年)に「日本固有の動物で著名なもののうち、学術上貴重で、我が国の自然を記念するもの」として国の天然記念物に指定(地域を定めない指定)され、文化財保護法により日本国内にいる全てのネコギギが保護されています。そのため、許可なく捕まえたり飼うことはできません。

また、環境省のレッドデータブックによれば、近い将来絶滅の危険性が高い絶滅危惧種IB類とされています。

分 布

ネコギギは、三重県・岐阜県・愛知県のみに生息しています。これら三県のうちでも伊勢湾・三河湾に流入する河川の中流から上流下部にのみ生息し、熊野灘など外洋に流れこむ河川では生息が確認されていません。

これまでにネコギギが確認されている河川は、三重県で8水系（揖斐川水系、員弁川水系、朝明川水系、鈴鹿川水系、雲出川水系、櫛田川水系、宮川水系、五十鈴川水系）、愛知県で3水系（豊川水系、矢作川水系、庄内川水系）、岐阜県で4水系（揖斐川水系、長良川水系、木曽川水系、庄内川水系）となっています。



ネコギギの分布地域

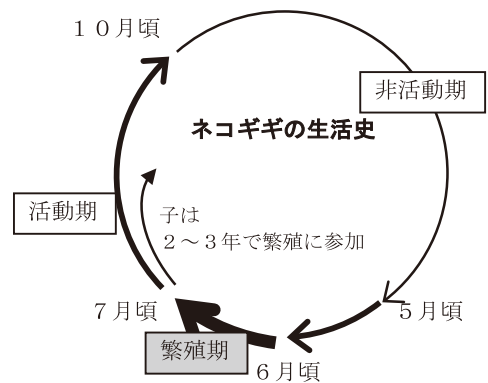
生 活 史

ネコギギは、川岸及び川底の岩や大きめの石の下などにできるすき間、水際に生えた木などの根の間などを隠れ家として生息しています。また、ネコギギが利用できるような石積み護岸などにできた空間など比較的古い人工物も隠れ家として利用する場合があります。このうちのネコギギにとって良い環境の隠れ家は、繁殖場所としても利用されます。

ネコギギは、水温が15℃を超える5月～10月ごろの夜間に活発となります。また、2才魚から3才魚になると繁殖が可能になると考えられており、繁殖期は6月～7月といわれています。繁殖期になると雄は隠れ家の周辺になわばりをつくり、ここをおとすれた雌が産卵をすることになります。卵は約3日で孵化し、仔魚（生まれてすぐの赤ちゃん）は雄が守ります。少し成長するとなわばりから出て、大きな個体とともに、大きな淵などで泳いでいるのが観察されます。

ネコギギは、昼間に隠れ家などで潜み、夜になるとそこから出てカゲロウ類やユスリカ類などの川底にいる昆虫などを食べます。

なわばりをつくれる良い隠れ家のあるなしが、ネコギギの数を決める重要な要因となります。隠れ家やエサを採る場所となる淵や平瀬が続いてあることが必要です。また、ネコギギが活発な時期の河川の流量や水質も繁殖に大きな影響を及ぼします。



ネコギギの生活史



ネコギギの生息に適した環境

生息に影響を与える要因

① 河川工事

河川工事による川岸のコンクリート化や工事中に発生する濁った水の流れこみなどは、ネコギギの生息場所やエサ場そして産卵場所の環境を悪化させるため、ネコギギに大きな影響を与えます。

② 堰等による移動の制限

河川に設置された取水堰（農業用水などを取り入れるための堰）など（以下、堰等と表記）は、ネコギギの移動をむずかしくします。このような堰等の設置は、一番の上流部にいる個体群（ネコギギの集まり）に新たなネコギギの入ってくることを期待できなくなり、個体群が孤立することになります。また、一定の区間に多数の堰等が設置されている場所では、個体群が小さく分断化されてしまい、結果的に遺伝的な問題が生じたり、個体群の個体数が減少するなどし、それらの個体群の絶滅の可能性が高くなります。

③ 密漁

ネコギギは、国指定の天然記念物であり、許可なく捕まえることは文化財保護法で禁じられています。しかし、国指定天然記念物であるミヤコタナゴやイタセンパラなどのタナゴ類は、その鑑賞的価値から密漁や密売が行われることがあるといわれています。近年、自然環境に対する意識が高まる中、希少な野生生物がかえって注目され、これらを手元で飼育したいと考える人も少なくありません。ペットショップやホームセンターなどでも、かつて身近に生息していたドジョウやイシガメなどが販売されており、大量の淡水魚が捕獲され、売買が行われています。ネコギギについても、インターネット等で密売情報が見受けられることもあるといわれており、その希少性（数が少なくて珍しいこと）から密漁・密売され、ネコギギの良好な個体群が大きな打撃を受けることは十分に考えられます。

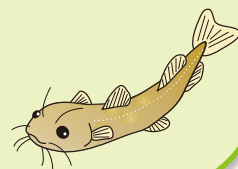
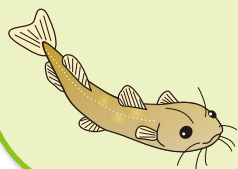
④ その他

その他に、河川の水質の変化や流量の減少、自然災害、ギギなどとの競合など様々な要因が考えられます。

ネコギギ豆知識（これであなたもネコギギ博士）

ネコギギの特徴

- ・ 小型のナマズ類である。ネコとは直接関係ない。
- ・ 伊勢湾、三河湾周辺河川のみに生息する日本の固有種。
- ・ 夜行性である。昼間や冬季は隠れている。
- ・ 餌は河川の水中で生活する昆虫（川虫）である。
- ・ ネコギギがいるところは自然が残っている。



保護に向けた取組

ネコギギを守っていくには、ネコギギのことを多くの人に知ってもらう必要があります。ネコギギが生息するいなべ市や亀山市では、ネコギギの学習会や観察会などを行うことで、ネコギギの生態や保護の必要性について、多くの人々に向けて発信をしています。

また、三重県内において、令和元年度に開催する「ネコギギサミット」では、有識者や行政担当者などによる情報交換や、一部を一般公開することで、ネコギギの生態や保護の必要性を広く周知し、今後のネコギギ保護の取組につなげていきます。



＜ネコギギサミット応援キャラクター＞



ネコギギワークショップ(亀山市)



小学校でのネコギギ飼育(いなべ市)

◎ネコギギに関する情報は、**地元市町村の文化財保護部局**または以下までお願いします。

三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課
☎059-224-3328

岐阜県 環境生活部県民文化局文化伝承課
☎058-272-1111 (内線: 3611)

愛知県教育委員会 生涯学習課文化財保護室
☎052-954-6782、6783